

(様式例)

令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2学年は、同学年1学年入学時に比べると、基礎・応用、4観点とも、全ての項目でかなり上昇し、全体として大きく上昇している。本校の理科授業改善推進プランの有効性を示す結果といえる。
- ・3学年は、昨年度は教科全体のスコアは全国の平均を下回っていたが、今回の学力調査の結果は全国平均を上回った。これは、基礎学力の定着をはかるため、限られた時間の中で復習を効率的に行ってきた結果であると考ええる。

(2) 課題

- ・1学年は、小学6年次では基礎・活用、3観点とも、明らかに全国平均・区平均を下回っており、定着率が低いといえる。本校授業改善プランを確実に進めていく。
- ・2学年は、1学年全範囲及び2学年既習範囲の復習を適時、効果的に実施し、より知識技能を定着させ、思考力を伸ばす工夫を確実に進めていく。
- ・3学年は基礎項目は、昨年度と比べて定着しているが、活用項目において全国平均より若干下回っている。思考力を必要とする問題に対して対応できるよう、基礎基本項目に重点を置きつつ、観察実験を通して自分の考えを表現する場を増やしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	基礎は、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。活用は、全国・区平均を明らかに下回っている。全体として、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。(第1学年入学時)		
第2学年	基礎は、全国・区平均、目標値を大きく上回っている。活用は、全国・区平均、目標値を明らかに上回っている。全体として、全国・区平均、目標値を大きく上回っている。	基礎は、区平均・全国平均を下回っている。活用は、区平均・全国平均を大きく下回っている。全体として区平均・全国平均を大きく下回っている。(第1学年入学時)	
第3学年	基礎は、目標値・全国平均・区平均よりも、やや上回っている。 活用は、目標値・全国平均・区平均よりも、若干下回っている。	基礎は、目標値・全国平均・区平均よりも、やや下回っている。 活用は、目標値・全国平均・区平均を大きく下回っている。	目標値・全国平均・区平均よりも、基礎活用ともに大きく下回っている。(第1学年入学時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。	全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。	全国・区平均を、やや下回っているが、目標値よりもやや上回っている。
内容別では、植物の発芽と成長、物のとけ方、月と太陽、大地のつくりと変化、てこのはたらき、水溶液の性質は、全国・区平均をかなり下回っている。物の燃え方は、全国・区平均、目標値をやや上回っている。動物のからだのつくりとはたらきは、全国・区平均、目標値を明らかに下回っており、区平均とほぼ同じである。植物のつくりとはたらき、生物と環境は、全国・区平均、目標値をやや下回っている。電気の利用は、区平均を上回っており、全国平均とほぼ同じである。		

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全国・区平均、目標値よりもかなり上回っている。	全国・区平均、目標値よりもかなり上回っている。	全国・区平均、目標値よりも大きく上回っている。	全国・区平均、目標値よりも大きく上回っている。
内容別では、植物の分類、動物の分類、水溶液の性質、火山、地層は、全国・区平均、目標値を大きく上回っている。身のまわりの物質とその性質、物質の状態変化、光の性質、音の性質、地層は、全国・区平均、目標値を明らかに上回っている。力の性質は、全国・目標値を明らかに上回っており、区平均とほぼ同じである。			

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区平均・全国平均よりも若干下回っている。	区平均・全国平均よりも上回っている。	区平均・全国平均よりも上回っている。	全国平均よりは上回っているが、区平均よりは若干下回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年 (2) 第2学年 共通

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒の興味を高める実験観察教材をより準備し、開発する。理科通信による良質の科学記事の掲載も重視する。技能を高める復習用実験及び演示実験教材を、一層開発し実行する。実験における技能の評価を工夫する。	実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。 授業における、習得と活用が連動する指導を重視する。特に活用実験を工夫し開発する。この指導により知識技能をより定着させ、思考力を高め、理科への興味関心をより高める。	復習用問題の一層の精選と工夫を行い、理科通信 web 版の作成を定期的に進める。教科書要点まとめを奨励し、自主学習をより励行させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視覚的に理解しやすい ICT 機器を活用した教材を開発し、毎時間の復習により知識の定着を図る。 観察・実験によって、生徒に技能の体得させる機会を	観察実験などを通して、自分の考えを整理し、表現する時間を多く取り入れる。 ホワイトボードや ICT 機器を活用して発表の機会を増	定期試験後に自分の解答の誤答分析を行うことで自分自身で弱点の把握ができる工夫をする。

増やす。	やしていく。	
------	--------	--